

8. 加齢男性性腺機能低下(LOH)症候群治療における 補中益気湯の役割

順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科¹⁾

帝京大学医学部 泌尿器科²⁾

○久末 伸一¹⁾、井手 久満²⁾、知名 俊幸¹⁾
吉井 隆²⁾、斉藤 恵介²⁾、磯谷 周治²⁾
山口 雷蔵²⁾、武藤 智²⁾、堀江 重郎¹⁾

【目的】我々はこれまでに補中益気湯単独投与にて加齢男性性腺機能低下(LOH)症候群患者のテストステロンを上昇させることを報告した。今回、我々はLOH症状を主訴に当科メンズヘルス外来を受診した患者に対する補中益気湯の処方傾向、効果について後ろ向きに検討を行った。

【対象・方法】2010年7月から2012年3月まで帝京大学医学部付属病院泌尿器科メンズヘルス外来を受診したLOH患者のうちAMS27以上のLOH症状を有する199名について検討を行った。午前中の遊離テストステロン、LHの採血、ならびにAMSによる質問紙評価を行った。

【結果】年齢中央値は56歳(範囲;28-87)、遊離テストステロン中央値は6.1pg/ml(範囲;0.8-21.5)、LH中央値は5.2mIU/ml(範囲;1.6-26.1)、AMS中央値は53(範囲27-85)であった。エンアルモンデポーによる単独療法を受けていた患者は91名、補中益気湯との併用療法を受けていた患者は100名、補中益気湯の単独療法を受けていたのは8名であった。エンアルモン単独、併用、補中単独における遊離テストステロン中央値は5.7、6.1、8.5と有意に補中単独群で高かった。(Kruskal-Wallis; p=0.019)年齢は各群において有意な差は認めなかった。治療後のAMS改善度については10.0、9.4、17.5と補中益気湯単独群で有意に高かった。(ANOVA; p=0.033)

【結語】補中益気湯単独投与されていた患者は治療前の遊離テストステロンが高い傾向が認められた。また、治療後のAMS改善度も補中益気湯単独群で有意に高かった。本検討から、Preliminaryではあるが、症例によっては補中益気湯単独投与はテストステロン補充療法と同様、LOH症状に対し有効な治療であることが示された。